

「だより」を2010年8月より毎月発行して参りましたが、2014年度からはニューアルして年間3~4号の発行に致しますので楽しみにしてください。

安房地域がん看護勉強会 ELNEC-Jコアカリキュラムのご案内

ELNECは、エンド・オブ・ライフケアを提供する包括的な教育プログラムです。全国各国で翻訳され普及し、日本の現状に合わせて修正したプログラムです。来年度はがん看護勉強会シリーズをELNEC-Jに致しましたのでぜひご参加くださいますよう、ご案内いたします。

日程：平成26年5月31日(土)・6月1日(日) 両日とも9:00~16:30
 会場：安房地域医療センター2階講堂
 対象：終末期医療に携わっている医療者 定員 20名*2日間参加できる方
 申込切：平成26年5月20日までにFAXでお願いいたします。

平成26年度マインドフルネス勉強会のご案内

マインドフルネスとは「気づき」という事で第3世代の認知行動療法として医療現場でも注目を集めています。平成26年度も4回シリーズで以下のとおり予定していますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

各回テーマ・申込については追ってご案内します。
 会場：亀田総合病院K13Fホライゾンホール 時間：9:00~16:00

第1回:平成26年8月9日(土) 第2回:平成26年10月5日(日)
 第3回:平成26年12月6日(土) 第4回:平成27年2月22日(日)

マイホーム 観葉植物

近頃はガーデニングなど、癒しブームの一つとして人気が高い。中でもストレッチャー・オーガスタやアレカヤシなど藤かご付で2mもの大きさのものはお祝いに頂けたら嬉しい。前の職場ではポトスやプライダルベールなど棚に置くサイズの鉢物を置いて楽しんでた。伸びた葉を切っては根を生やして、鉢物にしてほしい方にお配りして喜んで頂いた。最近マイホームで観賞している。特に気に入りはサンセベリア(日本名:虎の尾 原産地:アフリカ・南アジア)ですが、水をあまりほしがらないがいつも潤いをもって天に向かっての姿に元気をもらっている。マイナスイオンは他の植物の10倍発すると言われてるので、テレビなどの電化製品(プラスイオン)の近くに置いて空気を自然浄化している。癒しとはいえ、家中が葉っぱで埋もれない程度にしようと思う。

はっぱ64

三河のつぶやき

「地域連携とは？」

過日、安房医師会学術講演会で、「地域連携とは？」と題してお話させて頂きました。今年は千葉県地域連携に関するシンポジウムなどでお話させて頂いたこともあり、もともと人前で話すことに緊張はしないのですが…。今回は小嶋医師会会長をはじめ、西野先生(安房地域医療センター)や田中かつら先生(七浦診療所)が、医師会のメンバーとして暖かい目で見守って下さいました。亀田グループからも草薙先生(外科)、佐田先生(総合診療科)、平松先生(腫瘍内科)、坂先生(疼痛・緩和ケア科)、岡田先生・菅長先生(亀田ファミリークリニック館山)、吉田先生(安房地域医療センター総合診療科)、安室さん(薬剤部)、鈴木さん(診療部事務室)も参加されました。詳細は「安房医師会報」をご覧頂ければと思いますが、本当に楽しかった！多数の医師会の先生方と、亀田グループの多数の方が、自分たちの思いを話し、懇親会でもざっくばらんに楽しく話ができる機会はいままでなかったのではないかと思います。残念ながらご参加頂けなかった方々、継続的にこのような機会をもてればと考えていますので、今後は是非！懇親会だけではなく、今後は課題を見据えた継続した話し合いが必要です。今安房医師会では「在宅医療充実」をテーマに話し合いが続けられています。亀田総合病院に入院中の患者さまにも「家に帰って過ごしたい」と思っているのに、話し出せない人、実現できなかった人、いっぱいいると思います。患者さまとその家族の思いをできるだけ聞き取り、「家に帰りたい」という思いを実現できるように、地域の先生方と話し合いを進めていく必要があります。



地域医療連携室
室長 三河 貴裕

「糖尿病療養指導の広がりをめざす」 - 健康管理支援室師長 川上 知恵子 -

平成7年度人口動態統計調査では、千葉県の糖尿病による年齢調整死亡率は(人口10万人対)は、男性:全国5位、女性:全国4位と上位で、60歳代から高齢者に増加傾向が見られました。また、糖尿病を原因とした認知症や寝たきりの要介護者の増加により、医療費の圧迫が問題となってきました。

日本糖尿病学会でも、糖尿病人口の増加を懸念し、糖尿病療養指導士の育成制度を設立しました。

南房総では、糖尿病治療に関心のある開業医の先生や糖尿病専門医、及び糖尿病療養指導士は限局しており、連携がありませんでした。多くの糖尿病患者さまは、十分な知識と技術、的確な療養指導が受けられないまま重傷化し、当院へおいでになる様を多く目にしました。

そこで、平成17年に糖尿病療養指導士を含め糖尿病に興味のあるコメディカルが集まり、現場の悩みや現状を語りあい、切磋琢磨することで「糖尿病教育の底上げをしたい、指導の場を広げたい」との思いから「南房総糖尿病療養指導研究会」を立ち上げました。

会の開催は、年4回、薬剤師・栄養士・検査技師・看護師が輪番制でテーマを決め、講演・グループワークをセットに、1回3時間の勉強会を開催します。勉強会の様子を少しお知らせしましょう。

検査技師は、果物やお菓子を食べた後の手で、血糖測定をすると血糖がどう変動する？

薬剤師は、複数あるインスリン注射器の使い勝手は(メリット・デメリット)どう？

栄養士は、あなたは1日の食事、タンパク質・食物繊維をどのくらい摂っているの？

看護師は、患者の血糖値から、生活で何が起きているかを読みとり、どう指導するの？

など、参加者でわいわいがやがやとグループワークします。

グループワークは、各自の悩みや情報交換できる場でもあり大変好評です。近年は訪問看護や老健施設からの参加者も増えています。